



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

2月号

令和6年2月5日

校長 小堺 広司

学校教育目標
「自他の生命と人権を尊重し、
ねばり強くたくましい心豊かな
児童生徒を育成する」
～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



当たり前な日常に、生きるありがたさを感じる

「いつまでも忘れることのない思い出の火」
「たくさんのお話を学ぶ知恵の火」
「積極的に関わる交流の火」
「未来を切り開く創造の火」

火の神から、学年ごとに考えた「誓いの火」に点火され、最後に砂浜に作られたキャンプファイヤーがひとつの大きな炎となり、闇夜を照らしました。

2月1日(木)～2日(金)、宿泊学習でイリャグランジへ行きました。天候に恵まれ、バスレクに始まり、海水浴やビーチ遊びを堪能し、夜、大きな炎を囲み、歌・ゲーム・花火・踊り(マイムマイム)で、仲間と共に最高の時間を過ごすことができました。

今の教育で、様々な理由から大切なことが省略される中、子どもたちの心に響き、生涯に渡る思い出を彩りたい一心で準備しました。子どもたちも、係の仕事を中心に実行し、それぞれの活動を盛り上げてくれました。年長者が低学年を支える姿にも大きな成長を感じます。当たり前と思われ、日常には、多くの方々の協力があり、その積み重ねこそ、生きるありがたさであると感じます。



<2月全校朝会 校長講話より>

2月と言えば節分・ウグイス・梅、行事食に、イワシや大豆料理、恵方巻などがあります。「食」が心と体の健康について考えましょう。私たちが大好きだった絵本に「くまのプーさん」があります。枕元者のアラレン・アレックス・アレンは、1882年1月18日、「くまのプーさん」第一話を書き始めます。挿絵はアネカ・ハワード・シェパードが制作し、誕生から8年間の世界中の人々に愛されています。くまのプーさんは、食べ物や動物の考案者であるsilly old bear(ばつかり)の考案者であるが、実は思いやりがあり、友だちの欠点を寛容で受け止めることができます。コブタのピグレットは、親友のプーさんの気持ちを察し、その「くまのプーさん」の原書から場面となるプーとコブタの会話を英語で読み

すので読んでみましょう。洪水からピグレットを救出したプーさんの慰労会を開き、それが終わった後、夕日に向かって2人で歩きました。

「しばらく無口でいたけれど、とうとうコブタが言いました。」

「プー、きみ、朝起きたときね、まず第一に、どんなこと、かんがえる?」

「けきのごはんは、なににしよう?ってことだな。」と、プーが言いました。

「コブタ、きみは、どんなこと?」と同じ質問をすると、

「ぼくはね、きょうは、どんなすばらしいことが、あるかな、ってことだよ。」

「プー、きみは、かんがえぶかげにうなずき、こう言うのでした。」

「つまり、ぼくとおんなじことだね。」

プーさんは朝食に始まる1日を考へると、楽しに朝食に始まる1日を考へると、楽しに

「プー、きみは、かんがえぶかげにうなずき、こう言うのでした。」

「つまり、ぼくとおんなじことだね。」

プーさんは朝食に始まる1日を考へると、楽しに

「プー、きみは、かんがえぶかげにうなずき、こう言うのでした。」

「つまり、ぼくとおんなじことだね。」

○「日本を語ることの大切さ」を学ぶ



1月22日(月)、小学部3年生以上を対象に、総領事・真鍋様に日本を知る大切さについてご講話いただきました。ブラジルで日本の事を聞かれた時、日本をしっかりと語ってほしい、日本を学ぶと、当たり前でない日本の良さをたくさん発見できるというお話でした。

以下、子どもたちの感想です。「日本の皇室が一番古いと聞き、日本は良い国だと思いました」「梅が桜よりも春を表す話から興味が湧きました」「本格的に日本のことを学べて勉強になりました。これをブラジル人に伝えるのは難しいですが自分の心にしまえます。儂いものだから美しいという話に惹かれました。これからは日本の美学を大切にします」「日本は美しく、日本人であることを誇りに思います。ブラジルとの大きな違いは四季にあると気づきました。日本文化と共にブラジルの文化も大切にしようと思います」「お話の知識量と準備と何も見ないで話されたことに驚きました」「外国にいるからこそ日本の文化・歴史を見つめなおすことができると思いました」

○思い出いっぱい！体験入学 ～ またね！ ～



1月8日(月)～12日(金)、体験入学を実施しました。リオ日学の仲間たちと併せて26名が集い、学び、遊び、昼食を食べ、充実の5日間でした。図工・美術の共同制作、総合的学習の討論、各教科の対話のある学び、体育のネット型対戦、技術の木工加工、休み時間の外遊びや迫力を増したドッチボール、昼食時のあふれる会話など、このメンバーだからこそ味わえる貴重な時間となりました。お互いに切磋琢磨する姿は教育の原点であり、日本の教育課程を共に学び、学力が向上していく姿をずっと見守りたい気持ちに駆られます。機会がございましたら、またお越しくください。

○日学祭は大成功！ ～ 幸せな時間 ～



1月13日(土)、日学祭を実施しました。前半：けん玉・独楽・坊主めくり・習字、間：模擬店(お菓子・わらび餅・アイスクリーム)中：お正月クイズと羽子板演示、後半：ピンポンカップイン・ストライクアウト・スライム作り・バスケシュートを楽しみました。模擬店では保護者の皆様に、後半の遊びでは商工会のボランティアの皆様にお手伝いいただき、大人も子どもも、日本人もブラジル人も、みんなで楽しめる日学祭となりました。特に、体験入学の子どもたちは一緒に過ごしたばかりなので、楽しさが倍増、授業では見られなかった意外な側面が見られたり、連邦大や州立大のブラジル人学生さんたちが習字や坊主めくり熱中する姿や、保護者の皆さんが懐かしそうに独楽やけん玉に集中し、○十年前の技を取り戻したり、案外習字が人気で、思い思いの文字をしたため、作品を持ち帰る様子が印象的でした。幸せな時間はあっという間に過ぎて行きます。いつまでも記憶に刻んでおきたいと思いました。

＜カレー大好き、みんなで食べる喜び＞



1月31日(水)、調理実習(小5・中学部合同)でカレーを作りました。男子は牛スジ、女子はチキン。どちらも味わい深く完成。私が学生時代バイトした銀座デリ直伝バターチキンカレーとタンドリーチキンひとロサイズを全校の子どもたちと先生方にプレゼント。仕込みに時間がかかったけれど、美味しかったと感想を聞き満足。カレーはみんなで食べるから美味しいと実感します。次は誰のために作る？皆さんの宿題です。